学　校　通　信

小竹だより

練馬区立小竹小学校　　校長　熊木　崇

令和８年度　臨時号
No.　６５５

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果について

令和８年４月23日に実施された「全国学力・学習状況調査」（６年生）の結果をお知らせします。
本結果をもとに、授業改善に努め、来年度に向けて指導計画を作成していきます。

１．国語（学習指導要領の領域の内容）平均正答率（%）

	国語全体	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
小竹小	**72.0**	83.8	58.8	74.2	57.5	73.8
東京都	**65.0**	70.4	56.7	70.0	50.4	68.8
全国	**60.9**	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9

すべての項目において、東京都や全国の平均正答率を上回り、全体では、東京都を７ポイント上回りました。「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」において全国平均を約７～８ポイント上回りました。友達と話し合って考えを深めたり、登場人物の気持ちを想像したりする力が育っていて、全教員による授業改善の取組や読書活動を推進してきたことも結果によい影響を与えていると考えます。

今後も、普段の授業において目的に合わせて文章を読み比べたり、必要な情報を整理・活用したりする学習の充実を図るとともに、自分の考えを、根拠を基に分かりやすく書いたり伝えたりする活動を継続して取り組んでいきます。

２．算数（学習指導要領の領域の内容）平均正答率（%）

	算数全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
小竹小	**73.0**	78.4	73.8	80.0	63.3	62.5
東京都	**63.0**	68.0	63.4	82.9	49.9	53.9
全国	**56.4**	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6

「測定」の項目を除き、すべての項目において、東京都や全国の平均正答率を上回り、全体では、東京都を10ポイント上回りました。特に「変化と関係」において、基準量、比較量、割合の関係を捉える学習の定着度が高くなっています。授業で、友達といろいろな考え方を共有しながら学び合うことで、答えを導き出す過程は一つではないことを経験している成果が出ているものと考えます。

「測定」の項目では「示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるか」が問われました。時間を数値として理解するだけでなく、日常生活の中でも時間の感覚を体感できるように指導していきます。

※裏面に「児童質問調査」について掲載しています。

３．児童質問調査(一部抜粋)

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の合計の割合（%）

	小竹小	東京都	全国
①学校に行くのは楽しいと思いますか	**95.0**	85.5	85.7
②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	**90.0**	90.6	91.4
③人が困っているときは、進んで助けていますか	**100.0**	91.7	92.7
④道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	**92.5**	85.9	86.9
⑤自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	**80.0**	77.4	77.9
⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	**90.0**	78.0	80.1
⑦ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか	**60.0**	72.3	69.5

①「学校に行くのは楽しい」と肯定的にとらえている児童が 95%であり、学校生活に概ね満足している様子が表れています。今後も、この割合をキープできるよう、楽しくわかる授業をめざすとともに子供たちの困り感や悩みに気付き、学校全体で対応していけるようにしていきます。

②「先生は、よいところを認めてくれる」と肯定的にとらえている児童が 90%でした。ただ、全国平均と比較すると 1.4 ポイント低くなっています。日頃の授業や学校行事など、子供が活躍する場面で一人一人の良さを見出し、価値付け、伝えていけるように、より一層励んでいきます。

③④「人が困っているときは助ける」という自らの行動を肯定的にとらえている児童が 100%でした。道徳科の授業の充実に向けて取り組んでいることで、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度が育まれてきた結果が表れていると考えます。今後も「心のふるさと小竹小」に向けて、全教育活動を通して思いやりと社会性のある子供たちを育んでいきます。

⑤「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答した児童の割合は、都や全国を上回る結果となっています。慣れ親しんできたメンバーとの関わりの中で互いをよく知り、相手の考えを受容的共感的に捉えられるようになってきています。自他を認め合える雰囲気をこれからも大切にしていきます。

⑥「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と肯定的に捉えている児童が 90%となっています。普段から地域の皆様に支えられている感覚が芽生えているものと捉えています。今後も、地域の皆様とのかかわりを大切にして、教育活動に取り組んでいきます。

⑦都や全国を下回る結果となっており、40%の児童が否定的な回答をしています。より一層 ICT 機器を積極的に活用してくことで、使い方に慣れ、情報を整理できるようにしていきます。そのために、校内での研修を行い、有効な ICT 機器の活用方法を共有するなど、教員のスキルアップに取り組んでいきます。